





## 20周年記念行事での支援活動

の周年記念行事での支援活動  
福島での農産物継続購入活動に向けて  
来年の10周年記念を開設へ、被災者

来年の2周年記念総会を仙台で行うことは2月号の会報に記載済であるが、そのスケジュールが別表のように固まつた。東日本大震災の支那では、ナルクリして活動は、福島への支援活動を行つてきました。一方、原発事故による放射能汚染を受けた福島への支援活動は、方々とのお茶会やハンドマッサージでの癒しを行つてきました。

私が最初に、ナルクの埠事務所を訪れたのは60歳で、当時ナルク埠拠点は11年目の活動を始めていました。

運営委員に就いた頃、私は「なん」とを発言したことがあります。「NPOですか、前年度の評価が委員の自己満足に陥る



「一デイナーのつぶやき

5月25日(日)	5月26日(月)	5月27日(火)
被災地支援活動 (12:00～17:00) 福島市 仙台市 拠点の名産品を被災地に持参	総会・全国代表者会議 (9:30～11:00)  記念行事第1部 (11:00～11:40) 活動報告 ・震災復興支援活動 ・見回りたい  記念行事第2部 (12:30～14:30) シンポジューム  記念行事第3部 (14:30～17:00) 交流会	被災地の視察 (9:00～12:00) 大川小学校、女川町、 南三陸町、石巻、仙台 空港周辺ほか(マイクロバスに分乗)
植樹・慰靈碑巡り	20周年記念パーティー (17:30～20:00)	
福島市では果物の継続購入活動(JA新ふくしま)		

の支援活動について検討したが、短い時間制約がある中で、できることが、および会員の体力等を勘案すると、やはり仮設住宅への慰問が主体となる。ただ、それでは息の長い支援にはならず、一過性となってしまうため、福島に住む人に、「どんな支援を望むか尋ねたところ、「福島を素通りせずに、名所や温泉に立ち寄つて欲しい」とか、「風評被害で困っている農産物を食べて欲しい」等々の話が出ていた。

そこで、放射能汚染地域に住居がある知人を慰問した折、農産物の継続購入について調べてみた。確かに福島県はフルーツ王国（後述の参考▼を参照）と

福島県には「J新ふくしま」を含て17のJAがあり、各々のJAには農物直売所が数か所ある。今回は、そのことなく、活動の成果は組織の外にいる人々の生活の中に求めたい」。いかにも意氣軒昂で、現実の活動認識が追いついてるとは言えませんでした。

昨年の夏に実施した運営委員・地区委員の懇談会は、「ナルク堺の魅力」がテーマでした。出席者が語った次の言葉が特に心に響いています。

「ナルク会員としてつながりを大切にしながら、生活上の切実な声に応じることができればいいのだか」。

今から思えば、ナルクの活動には二つの力が作用しています。前者の活動評価の場面は外の方向に、地域社会に向かおうとする姿勢です。後者の魅力についての「コマは内に向う力で、多様な会員の期待をまとめよう」と志向している内容なのではない



### 福島県のシンボル「鶴ヶ城」

のフルーツラインと呼ばれる飯坂温泉に近い県道に面する農産物直売所「こら吾妻店」に行き、J A新ふくしまの職員と「こら吾妻店」の担当者から話を聞いた。ここでは、現在出荷される果物を2つ（団体（長崎のN P O、東京のロータリークラブ）が定期購入をしてくれていること）である。また、必ず全品放射能検査を実施して安全性を確かめてから（出荷であることなどについての説明を受けた。

店内はちょうど果物の端境期であり、地元の果物はほとんどなかつたが、野菜類がたくさん並べられていた。果物以外に、日持ちする物のか、と振り返っています。

そのことはまた、「人間力」という別の言葉に置き換えてみると、思います。私たちの生き様には、自己のためにお金や情報を「集める人生」と、他者のために思いや蓄財を「散らす人生」があります。

堺の会員の平均年齢は年々上昇し、現在は71歳となっています。そのことほしだけ蓄積した財産を持ち、周りに撒いていくには十分過ぎることを意味するのではないかろうか。このように課題を煮詰めて問題をつくりましたが、そこにはどうのよくな解答を含めるのか、暗中模索をしているところです。



会長と懇談するミレナーさん

定年退職者向け  
ナルク出前講

子育て・街づくり支援。プロ

ナルク・サマー  
フェスタの開催

でもナルクのよつたシステムを作りたいと語り、アムステルダムの日本人社会にも呼びかけ、ナルクの拠点としてスター法かも知れないと、前向きな発言があった。

高畠会長も「今年はロンドン拠点設立もあるので、訪英する予定でいるが、その帰りにでもお寄りしたい」と語り、ナルク・アムステルダム拠点が一步前進した形となつた。

団塊の世代に対する取り組み等が意識調査を実施したところ、どの調査結果も「団塊の世代は定年後の生き方として、全生活時間のうち1／3はボランティアの実践で社会貢献、1／3は旅行・趣味を楽しむ、1／3はフルタイムで働きたいとの結果が出ています。今般、企業の定年退職予定者に退職後的人生設計等の研修会を実施する際、カリキュラムの中に「ナルク出前講座」を組み込んでいただけ。高畠会長も「今年はロンドン拠点設立もあるので、訪英する予定でいるが、その帰りにでもお寄りしたい」と語り、ナルク・アムステルダム拠点が一步前進した形となつた。

団塊の世代に対する取り組み等が意識調査を実施したところ、どの調査結果も「団塊の世代は定年後の生き方として、全生活時間のうち1／3はボランティアの実践で社会貢献、1／3は旅行・趣味を楽しむ、1／3はフルタイムで働きたいとの結果が出ています。今般、企業の定年退職予定者に退職後的人生設計等の研修会を実施する際、カリキュラムの中に「ナルク出前講座」を組み込んでいただけ。高畠会長も「今年はロンドン拠点設立もあるので、訪英する予定でいるが、その帰りにでもお寄りしたい」と語り、ナルク・アムステルダム拠点が一步前進した形となつた。

団塊の世代に対する取り組み等が意識調査を実施したところ、どの調査結果も「団塊の世代は定年後の生き方として、全生活時間のうち1／3はボランティアの実践で社会貢献、1／3は旅行・趣味を楽しむ、1／3はフルタイムで働きたいとの結果が出ています。今般、企業の定年退職予定者に退職後的人生設計等の研修会を実施する際、カリキュラムの中に「ナルク出前講座」を組み込んでいただけ。高畠会長も「今年はロンドン拠点設立もあるので、訪英する予定でいるが、その帰りにでもお寄りしたい」と語り、ナルク・アムステルダム拠点が一步前進した形となつた。

豊かな追求が  
幸福の追求へ、団  
内世代の力を地域で  
用いていきたい、  
いた素晴らしい  
容の講演でした。  
場からも、自治体  
もつと定年退職者  
活用すべきといふ  
見が出ました。  
私の感想  
今年は団塊世代  
地域社会にデビュ  
の時、タイミング  
い企画で共感しま  
た。ナルクも、つ  
つ企画で団塊世  
をナルクに引き入  
る努力が必要と感  
ました。(花崎良  
・川崎拠点代表)  
**ナルク・サマー  
フェスタの開催**  
近畿圏の会員交  
を図るうどんづき  
で、標記のイベント  
を開催します。多く  
に参加ください。  
日時：8月3日(土)  
12時～15時  
場所：池田市市民  
化会館2階  
ゼリアホール  
(阪急石橋  
下車 北へ  
歩8分)  
会費：4,000円  
申込・拠点毎にお申  
めで6月28  
までに左記  
木村良三(豊中・  
西村順子(本部)  
090-7558-8099  
青木富子(本部)  
090-4292-7111  
田拠志)

92 71 14 池へ日と 徒駅ルア文 七) 数ト的流政じれ代いしょ!が 意をが会内と活塊ら

